

# 教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)  
予約購読料 1年分 5,000円  
紙代のみ 3,500円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546  
FAX 03(3207)3918  
発行人 内藤 留幸  
編集主筆 竹澤 知代志  
印刷所 株式会社きかんし



仙台東六番丁教会 (東北教区、宮城中地区)

## クリスマス メッセージ

### 詩編80編4節

# 主のもとに連れ帰られる



高橋和人

### 場面ごとに聖書の言葉が

神よ、わたしたちを連れ帰り  
御顔の光を輝かせ  
わたしたちをお救いください。(詩編80編4節)

クリスマスをどのように  
迎えようとするのか、今年  
は特別の期待を抱きなが  
ら、しかし思いが定まらな  
いまま迫っている。震災  
の日から、時にも途切れ  
途切れに過ぎることばかり  
になってきてしまった。ま  
とまったこと、積み重ねて

ていることは何かに包まれ  
ていてできたことのように  
思う。散乱した部屋で、な  
くしたものと、もう前とは  
同じように収まらないもの  
を抱えて立ち尽くしている  
ようである。

しかし、あの日から、場  
面ごとに与えられ、支えら  
れた聖書の言葉があった。  
停電し、まったく通信が  
途絶えた中で、震災の二日  
目の夜を迎えた。ラジオの  
語る、すぐ近くの圧倒的な  
破壊と被災の異様な報告に  
おびえ、緊急地震情報に

度々外に逃げ出していた。  
人間の営みが打ち砕かれて  
いた。しかし、大空は自分  
を取り戻したかの様な星空  
であった。「あなたの天を、  
あなたの指の業を、わたし  
は仰ぎます。月も、星も、  
あなたが配置なさったも  
の。そのあなたが御心に留  
めてくださるとは、人間は  
何ものなのでしょう。人の  
子は何ものなのでしょう、  
あなたが顧みてくださると

は(詩編8編4・5節)。  
揺るぎのない天、そこにあ  
るのは人間を顧み御心に留  
めてくださる神。この不安  
の中で人とは何ものかを問  
うならば、神が目を注いで  
いるところから、そのまな  
ざしを向け、顧みておられ  
るそこから始めねばならな  
い。足元が揺るがされる中  
では上からのまなざしによ  
って立つほかにない。しか  
し、「あなたが」そこに立

たせてくださったところに  
やっと立つことができるの  
である。  
3月13日の日曜日、余震  
の中で人とは何ものかを問  
め礼拝を守ることができ  
いるところから、そのまな  
ざしを向け、顧みておられ  
た。聖書箇所は「慰めよ、わ  
たしの民を慰めよと、あな  
たたちの神は言われる。…  
草は枯れ、花はしぼむが、わ  
たしたちの神の言葉はどこ

しえに立つ」(イザヤ書40章  
1節、8節)であった。神の言  
葉が立っていることは慰め  
と切り離すことはできな  
い。神の言葉の礼拝が慰め  
の基点となっている。教会と  
集う者が力づけられた。  
翌日、わたしが訪ねた津  
波の被災地の一つは、驚く  
ほど静かであった。山際ま  
で泥が押し寄せ、針金のよ  
うに曲がった緑線、鉄橋の  
橋げたが上流にあるコンク

リートの橋脚にひしゃげて  
巻き付いていた。川を上る  
津波の途方もない破壊力。  
それが、音のするものをな  
ぎ払ってしまった。嘆  
きの声さえおわれている  
と思うと痛ましい。嘆くこ  
と、それは聞かれることに  
至る。「主はわたしの嘆きを  
聞き、主はわたしの祈りを  
受け入れてください」(詩編  
6編10節)。  
嘆きとともに痛ましいこ  
とは、沈黙におかれること  
である。詩編は「わたしの  
魂は沈黙して、ただ神に向  
かう。神にわたしの救いは  
ある」(62編2節)と語る。し  
かし、そこにまでどのよう  
に心を向けることができる  
のだろうか。

### 決して小さなものではない

イザヤ書は主の僕の姿を  
「苦役を課せられて、かが  
み込み、彼は口を開かなか  
った。屠り場に引かれる小  
羊のように、毛を切る者の  
前」に物を言わない羊のよう  
に彼は口を開かなかった」  
(イザヤ書53章7節)と語  
った。  
沈黙の中にかがみこみ、  
そのようにして嘆きを負う  
姿にこそ、沈黙を開き嘆き  
を投げかけることができる  
のではないか。彼の受けた  
傷によって、わたしたちは  
いやされた」(同5節)。傷  
ついて沈黙し、かがみこん  
でいる姿に慰めを得るこ  
と。それは心底弱ったもの  
を受け入れるものになる。  
福島県の果樹畑はいつも  
見事に手入れされている。

しかし、今年目にした果樹  
畑は異様であった。赤茶け  
て、アメリカシロヒトリの  
巣の網が延々とかかっている。  
収穫ができず手入れも  
なされない。廃墟のような  
恐ろしい畑となっていた。  
放射能は見えない、しか  
しその影響はこのように見  
えるものとなっている。「な  
ぜ、東北が。なぜこの弱い  
ところに」と繰り返し問う  
思いがこみあげてくる。

「ユダの地、ベツレヘム  
よ、お前はユダの指導者た  
ちの中で、決していちばん  
小さいものではない。お前  
から指導者が現れ、わたし  
の民イスラエルの牧者とな  
るからである」(マタイによ  
る福音書2章6節)。これは  
ミカ書「エフラタのベツレ

へムよ、お前はユダの氏族  
の中でいと小さき者」(5章  
1節)を引用してのことであ  
る。そこでは「最も小さ  
き者」が「決して小さなも  
のではない」に変化してい  
る。それは、ご自分を小さ  
な者として与えられた方が  
そこに誕生されたからであ  
る。  
「神の身分でありながら、  
神と等しい者であることに  
固執しようとは思わず、か  
えって自分を無にして、僕  
の身分になり、人間と同じ  
者になられました」(フィリ  
ピの信徒への手紙2章6  
節、7節)。小さなものが  
小さなものではないとされ  
るのはご自分を無にされた  
方がそこに自分を置き、  
お生まれになったからであ  
った。それは小さいがゆえ  
に目を留め、これを顧みら  
れることが神のなされるこ

### 共に祈られることを願って

主イエスの降誕の出来事  
はイスラエルの歩みをつづ  
り合わせ、今に至るまで「神  
は我々と共におられる」(マ  
タイによる福音書1章23  
節)ことを貫いてくださる  
ことであった。断片となっ  
ているものがつづりあわさ  
れる、神はそれを一筋の光  
をもたらしという仕方であ  
るのをご自分を無にされた  
方がそこに自分を置き、  
お生まれになったからであ  
った。それは小さいがゆえ  
に目を留め、これを顧みら  
れることが神のなされるこ  
とである。それは、例  
えより、ただ待望し祈る  
ことが、主の待望にふさわ  
しいと言える。今の時が敵  
しければそうであるほどそ  
れは主の待望にふさわし  
い、光への思いが切実であ  
ることこそがクリスマスの  
備えにふさわしいと言える  
ことになる。それならばわ  
たしも自分がいつもよりも  
散らばった心の中で、むし  
ろより強くはつきりと主の  
降誕を待望しているとい  
うことができる。それゆえ  
に心強くしこり祈りたい。

お知らせ  
「教団新報」今号を47  
38・39合併号とし、次  
号は1月21日に発行しま  
す。尚、教団三局は12月29  
日から1月4日は休業、  
5日より通常業務となり  
ます。  
教団総幹事 内藤留幸

### 《公募》

- ①東北教区被災者支援セ  
ンター(通称・エマオ)  
有償ボランティア(要  
面談)  
◎人数 1名  
◎期間 1月10日～  
3月31日
- ◎資格 教職(含む隠退  
教師)  
\*但し引継ぎ業務のため  
事前(年末)に5日程  
度現地に滞在できる方  
②救援対策本部室(通称・  
11号室) 有償ボランテ  
ィア(要面談)  
◎人数 1名  
◎期間 1月10日～  
3月31日
- ◎公募期間 ①②とも12  
月22日迄
- ▼申し込み先 海外献金  
プロジェクト小委員会  
救援対策本部(11号室)  
担当/白鳥 TEL 03-  
3205-6088  
e-Mail kyuen11@  
ncj.org

「神よ、わたしたちを連れ  
帰り、御顔の光を輝かせ、  
わたしたちをお救いくださ  
い」(詩編80編4節)。主の  
もとに連れ帰られること、  
そこにわたしたちの復興が  
ある。クリスマスの祈りは  
復興への祈りとなる。  
(仙台東六番丁教会牧師)



## 全教団的取り組みを推進すべく

### 教区議長会議開催

11月29日、教団会議室にて、第37総会期教区議長会議が開催された。出席者は、教団三役と各教区議長（またはその代理者）16名（沖縄教区は欠席）と、内藤留幸総幹事ほか幹事4名であった。

初めに、石橋秀雄議長が、本会議は教規39条(2)に基づいて開催したものであり、今期三役において本会議の開催を検討していたところ、東日本大震災が発生し、この度は主にその対応と今後の支援を協議し、全教団的取り組みを推進したいと願っていると述べた。

出席者が自己紹介をした後、まず東日本大震災による被害状況について被災三教区（奥羽、東北、関東）の各議長が報告した。続いて、各教区における



邑原宗男奥羽教区議長による現状報告を聞く

支援内容として、教区内に支援委員会を立ち上げて献金や物資支援の呼びかけをしたこと、ボランティアの派遣をしていること、被災教区の議長や教師を迎えて報告会を開催したこと、定期的に祈祷会をもっていること、被災教区との交流のための委員会を立ち上げて支援活動をしていること、震災対応の経験がある人員を派遣し、被災教区からの要望に基づいた支援をしていること、専用の献金袋を製作して教区内の全教会に配布していることなどが報告された。

次に、加藤誠幹事（教団震災対応担当）が、教団救援対策本部事務局活動報告として、仙台の「エマオ」、遠野の自殺防止センター、福島の子どもたちの短期保養

プログラム等の報告をした。また、国内および海外からの献金の状況、救援対策本部会計について資料により報告がなされ確認した。以上の報告の後、東日本大震災教団救援募金推進についての協議に入り、まず雲然俊美書記が、資料により震災による会堂等の被災状況の全体像を報告した。続いて岡本知之副議長が、教団からの支援額の決定方法の検討や、公平性を保つことなどのため、被災三教区の議長にも委員となっていたとき、支援金の配分の方

あり方を検討するための話し合いをすでに始めていることを報告した。

なお、岡本副議長は、海外募金の状況に関して、海外メディアにおいて日本政府や東電の震災対応への批判（情報隠蔽、放射線による海洋汚染など）が強まっており、海外からの献金にも影響を与えるのではないかと懸念があるので、そのためにも国内募金に全教団的に協力してほしいと述べた。

以上の報告を受けて協議に入った。協議においては、これまで教区に直接さげられた献金を教団への募金として計上することについて意見交換をし、教区に直接さげられた献金であっても、それを用いることにおいては、教団からの支援

金と分けて扱うことは難しいので、ぜひ各教区にさげられた献金と、教団にさげられた献金を合算してほしいとの意見や、被災教区に直接支援したものは教団への募金とは別にしたほうがよいとの意見も出された。



支援募金方法では様々な意見が

といった意見が出された。また、同ニュースに掲載されている募金集計の各教区毎の比率は記載しない方がよいとの意見や、各教区でそれぞれの教区の実情に応じた募金目標を設定してもらったことが望ましいといった意見などが出された。

以上した後、教団の伝道に関する協議の時間をもった。

まず初めに、教団伝道方針策検討委員会の北紀吉委員長が、同委員会では各委員に課題を割り振り、その発表を受けて、常議員会に提言するものをまとめる予定であること、伝道が具体的に進展するための提言をしたいこと、伝道の課題として教団ですべきことについて協議していることなどを報告した。

その具体的な内容としては、「伝道委員会のもとに伝道推進室」を設けて各教会の伝道を支援したり、伝道資金を設けて各教区や各教会の伝道の活性化のために有効的に用いること、地方において、その地域での伝道を中心的に担っている教会がしっかりと立つことがその地域の伝道を支える

## 「宣教基礎理論」改訂進み委員会案提出へ

### 第5回宣教研究所委員会

第37総会期第5回宣教研究所委員会が11月17日に開催された。

これまでの宣教研究所委員会で「宣教基礎理論」の改訂に鋭意取り組んできた。今回の委員会では、作

業部会で作成された改訂案案を検討し、本文部分においては委員会案として提出できるまでに作業を進めることができた。残る作業は、引用聖句の確定、用語集の作成である。

改訂作業を終えた本文部分は、A4版で19頁ほどの分量である。目次だけを紹介すると、第一章「三位一体の神の招き」、第二章「宣教の主体であられる神」、第三章「宣教の内容」、第四章「宣教の対象」、第五章「宣教の方法」、第六章「宣教の目標」である。

宣教基礎理論というのは、宣教研究所が1963年に発表したものを指す。50年ほど前なので当時の経緯は文献によるしかないが、日本基督教団史資料集によると、最初に宣教基本方針が作成され、これが1961年第11総会期第6回常議員会で承認された。



鋭意取り組んできた結果を常議員会に

帯的に働きかける「伝道圏伝道」を二本柱とするものであった。

この宣教基本方針の中に「新しい宣教の基礎理論の確立」が謳われ、その研究が宣教研究所に委嘱された。宣教研究所は、1962年に「日本基督教団宣教基本方針（第一項基礎）」に基づき宣教の基礎理論（案）を作成し、1963年に「宣教基礎理論試論」として完成し、第3回伝道

全体委員会で承認されたという経緯を持っている。この度の改訂は、この「宣教基礎理論試論」の改訂として宣教研究所が手がけたものである。

宣教研究所規定第3条に基づいて、研究成果として発表したいと願っているが、常議員会で取り上げていただいて大いに議論していただきたいと願っている。

（長谷川洋介報）

## 荒野の声

▼120年以上の歴史を持つ、東北の小さな教会、その創設期の話。未だ数人しかいなかった教会員の幼い娘が亡くなった。鰻と梅干しの食いの合わせによると、記録にはある。食いは菩提寺の先祖の墓に葬られた。当時のこと、勿論土葬だ。▼住職は極めて寛容だった。しかし、

神聖な場所に耶蘇の娘を葬るとは、この圧倒的な事実の前に、非を悟り、再びその場に埋葬した。この青年たちの中から信仰に至る者があつたかどうかは記録にない。▼お経はちゃんぶんかんぶんだが、説教は分かる。その分悲しみも深い。が慰めも深い、という感想を聞く。葬儀は最大の伝道の機会だ。明治の昔から、そうだったようだ。▼私たちの理解を超えた所で、福音は花開く、棺の中で咲く花もある。



## 合同メソジスト教会よりエマオ石巻に専従者

### 第2回宣教師人事委員会

第37総会期第2回宣教師人事委員会が、11月16日(水)、教団会議室において開催された。

まず初めに、現在日本国内で活動している宣教師の

近況が紹介された。闘病中の一宣教師が無事に帰国できよう回復を願う。

また、近年、北米主流派教会の教勢が退潮傾向にあり、財政難の故、宣教師の

支援体制に支障をきたしていること、日本から宣教師を引き揚げる方針の教派があることを確認した。

宣教師の受け入れに関しては、アジア学院(関東教区)に新たにレイチェル・ブラー宣教師が派遣される。さらに、東北教区の東日本大震災被災者支援センター・エマオ石巻の専従者を合同メソジスト教会より受け入れる予定である。現在、2名の派遣希望者があり、時期を違えて迎え入れる。

教師転入に関してのルールの明確化と、今後、宣教師の約の有無にかかわらず全ての教派から宣教師を受け入れることの可否、宣教師の

牧会する教会で深刻な問題が生じた場合の適切な対応等である。

これらの事項を検討すべき背景として、近年、日本国内の他教派では、宣教師が赴任した教会がカルト化するケースや教会ごと所属教派から離脱しようとするケースが生じており、教団

においても宣教師を受け入れる体制の更なる整備が急務となっている。今後、継続して検討を続ける。

また、教団関係学校で教団の受け入れ宣教師でない教職を招聘する方針の学校があり、改めて「受入宣教師に関する内規」に教団が受け入れる宣教師の人事権

は当委員会にあることを再確認し、今後も大学等、学校で活動する宣教師の受け入れ方法に支障がないよう協議した。

2010年度の当委員会の決算を承認して閉会した。次回の委員会は、来年3月14日(水)。(山田謙報)

## 宣教師と教団との関係強化を

### 第1回宣教師支援委員会

第37総会期第1回宣教師支援委員会が、11月7日(月) 教団A会議室において開催された。

事務局より、世界宣教師会、海外からの震災救援募金についての報告を受けた後、旧COC(宣教師協力協議会、宣教師支援委員会の前身、新任宣教師オリエンテーション)についての説明

別訪問している。旧COC解散後、宣教師と教団との関係は希薄化の傾向がある。事務的な手続は教団を通して行われているが、具体的なお世話を受け入れ先が行っている。今後、宣教師と関係を深め、各々の状況を把握する必要があるとされた。

引き続き、帰国した宣教師と退任宣教師に送付されている印刷物Missionary Bulletinについて協



宣教師受け入れ体制の更なる整備が急務に

今回、特に協議がなされたのは「外国人教師に関する規則」(案)が事務局より提示された今後の宣教師受け入れ体制の整備に関してである。その内容は、宣教師でない外国人教師のヒザ取得のための身分保証と

初めに、前回宣教師支援委員会議事録が承認され、

事務局より、世界宣教師会、海外からの震災救援募金についての報告を受けた後、旧COC(宣教師協力協議会、宣教師支援委員会の前身、新任宣教師オリエンテーション)についての説明

別訪問している。旧COC解散後、宣教師と教団との関係は希薄化の傾向がある。事務的な手続は教団を通して行われているが、具体的なお世話を受け入れ先が行っている。今後、宣教師と関係を深め、各々の状況を把握する必要があるとされた。

引き続き、帰国した宣教師と退任宣教師に送付されている印刷物Missionary Bulletinについて協

## 信徒の戒規について答申

### 第4回信仰職制委員会

第37総会期の第4回信仰職制委員会が11月7日(月)8日(火)に、委員7名全員の出席のもと教団会議室で行われ、以下の一つの諮問に答申が出された。

【諮問】信徒の戒規における教区常置委員会の審判の効力について

戒規施行細則では、教師の戒規については第6条で、「審判委員若干名を挙げ、之を審判させるものとする。審判委員において審判したるものは、最終決定とする」とありますが、信徒の戒規については、第11

条で「教区常置委員会の議を経て、之を審判するものとす」とあるのみで、最終決定については触れていません。信徒の戒規における教区常置委員会の審判と、戒規を執行した教会役員会とは、戒規の最終決定に関してどのような関係にあるのでしょうか。

#### 【答申】

信徒を戒規に附することが出来るのは、その信徒が属する教会の役員会のみです。これは教規第102条(6)および戒規施行細則第9条、第10条が明示して

いる通りです。ただし、戒規の執行は日本基督教団信仰告白ならびに教憲・教規に照らして、適正に行われなければなりません。そのことを全体教会としての日本基督教団が「教会的機能および教務を遂行するために」置いている教区は指導する責任があります。これが戒規施行細則第11条の意味していることです。

従って、戒規施行細則第11条における教区が行う審判基準は、その戒規が日本基督教団信仰告白ならびに教憲・教規に照らして適正



微妙かつ深刻な問いを前にして

## 消息

田中美彌子氏(隠退教師)



11年3月20日逝去、64歳。東京都に生まれる。'82年東京神学大学大学院修了、同年東村山教会に赴任、鎌倉雪ノ下教会を経て、'84年より08年まで浦賀教会を牧会し、隠退した。

金光賢一氏(隠退教師)



11年10月10日逝去、83歳。長崎県に生まれる。'52年日本聖書神学校卒業、'53年水戸自由ヶ丘教会に赴任、富田林教会、美陵教会を経て'65年より'99年まで富田林教会を牧会し、00年隠退した。遺族は息・行田建さん。

## 事務局報

正教師登録

井上博子

(2011.6.19受按)

末瀬喜美子

(2011.9.11受按)

床次隆志、廣田崇示、山本修一

(2011.11.21受按)

太田望、新井秀

(2011.11.23受按)

北川恭史、吉田慈、高田輝樹、棚橋千恵美

(2011.11.26受按)

### 「兵庫県南部大地震記念の日」追悼礼拝

◎日時 2012年1月17日(火) 午後6時

◎場所 日本基督教団 神戸教会

(神戸市中央区花隈町9-16)

#### ◎メッセージ

「共感と共苦の連帯に生かされる」

新免 貢さん(宮城学院女子大学教員)

◎主催・問合せ 兵庫教区

(TEL 078-185614127)



# 牧師のパートナー

1985年、七尾教会に転入会した時にわたしは一番若い現住陪餐会員でした。自分に一番近い会員でも10才以上離れていました。礼拝出席者も20人に落ちました。東京生まれの私にとっては、都会とは全く違う様々な状況に驚かされる毎日でした。

人口5万人ほどの七尾市。住んでいる人々はお互いのことをよく知っています。教会に新しい来会者があると、それが七尾在住の方であれば、その方がどなたであるかだいたい分かります。匿名の信仰生活などない社会です。

小さな教会は、一つの家族のようです。互いのことをよく知っています。その中でそれぞれが自分の役割を担っています。家族の中でキリスト者は一人だけという状況で、教会の礼拝に集っています。家族の顔をうかがいながら、教会の奉仕をしています。

牧師のパートナーといっても、一人の教会員にすぎません。教会としてすべきことがあり、誰かがなくてはいけないことがある。その時にできる誰かがその役割を果たすしかありません。

## 間近に見ることができた恵み

釜土 蘭子  
(七尾教会員)

しかし、牧師のすぐそばにいるということは、少し特殊なこともあります。

2007年3月25日。奇しくも日曜日。教会学校の子どもたちと共に礼拝をまもっていた時に起きた能登半島地震。当日は何が起こったのか、よくわからないまま一日が過ぎていきました。

牧師の身近にいると他の教会員よりも早く情報が入ってきます。地震からしばらくたって、たいしたことが無いと考えられていた建物の被害が、実は違うことがわかっていきました。少しぐらいのひび割れでこのままこの建物を使う

さい」とのアドバイスもいただきました。皆をあまり不安がらせないように、気を配りながら説明したり、話したりする毎日でした。

他の方々よりも先に恵みを与えられることもあります。能登半島地震の時には、全国からたくさんの方が能登を訪問してくださいました。励ましのお手紙をたくさんいただきました。そして捧げ物をしてくださいました。それを誰よりも早く、そして間近に見ることができたのも、牧師のパートナーとしての恵みでした。

2011年3月、能登半島地震から4年がとうとした頃、新礼拝堂は完成に近づきつつありました。残念ながら期日までに工事は完了せず、いくつかの工事を残したまま、使える場所から使うことになりました。一応の区切りとした工事を完了日が、3月11日でした。七尾教会にとっての能登半島地震からの復興の時が、あの東日本大震災の時となりました。能登半島地震など比べようもないほどの大きな災害の前に言葉を失いました。ただ祈りを合わせました。

今、七尾教会の礼拝堂は元の場所と同じように建っています。七尾の小さな教会のひとりひとり、これが神様の業であることを知っています。

現在、主日礼拝に集う群れの人数は26年前と同じぐらいです。けれども自分よりも年下と年上が半分ずつになりました。



上、地元紙に掲載された献堂式  
下、教会員と共に

### 出版局 ニュース

http://www.bp.ncj.or.jp

#### ★新刊から

- ◇CDで聴く日本の説教  
《第3回配本》『竹森満佐一』加藤常昭・監修 聖書学者であり、神学教育者であった竹森満佐一は、何よりも教会の礼拝を通してみ言葉を語り続けた説教者であった。吉祥寺教会の礼拝で語られた代表的な説教の録音を二枚のCDに収録。
- 《好評発売中》『島村亀鶴』榎本保郎 各3570円
- ◇さんびかものがたりV  
《全5巻完結》平和の道員と信仰生活の歌『川端純四郎』著 「讃美歌21」の430番以降の信仰の歌の中から、「神はわが力」「山路へえて」「あめなるまことび」等の歴史的讃美歌、また「球根の中には」等の新しい歌まで、37曲の誕生のドラマを紹介。賛美する喜びがさらに深められるシリーズ。
- ◇『東日本大震災を通して』待望の完結。各2520円。
- ◇『東日本大震災を通して』問われたこと 現代日本の危機とキリスト教 東日本大震災緊急シンポジウム『日本基督教団救援対策本部』編 2011年8月に銀座教会で開催されたシンポジウムの再録。開会礼拝説教(北紀巨、教団議長長揆 彦(石橋秀雄)他、キリスト教学校(中山昇、神学者(芳賀力)、社会福祉(稲松義人)、教会・牧師(岡本知之、それぞれの視点からの発題及び講演「土曜日のキリスト」(大木英夫等)を収める。1995円
- ◇特別増刊号『説教黙想ア レティアー危機に聴くみ言葉』3月11日の後で教会は何を聴き、何を語るか」
- ◎第一部「座談会」被災地の牧師は、何を経験してきたのか。東京の神学者たちは何を経験してきたのか。加藤博道、佐藤司郎、高橋和人、宮崎新、柳谷雄介、吉田隆、近藤勝彦、徳善義和、並木浩一、平野克己
- ◎第二部「歴史を振り返って」危機と向き合ってきた歴代の説教者たちに学ぶ。久米あつみ、佐藤司郎、四宝揚 鈴木正三、ジム・ピターソン、柳田洋夫
- ◎第三部「説教黙想」今こそ味わうべき、み言葉の黙想。雨宮慧、小友聡、加藤常昭、左近豊、鈴木淳一、高橋重幸、立野泰博、徳善義和、吉田隆、吉村和雄
- 2000円
- ◇ひかりをかけて《第一回配本》『ディートリッヒ・ボンヘッファー』ヒトラーとたたかった牧師』村上伸・著 「牧師ボンヘッファーが、悪人といえど、何故ヒトラー暗殺に関わったのか」。若い人たちに、信仰を貫いて生きたキリスト者の姿を伝える伝記シリーズ、第一弾。1260円
- ◇ニューセンチュリー聖書注解「雅歌」ジョン・G. スネイス・著 竹内裕・訳 男女が愛を情熱的に歌い上げる雅歌が、なぜ正典なのか。ユダヤ教やキリスト教の解釈を踏まえつつ、テキストを詳細に解き明かす。4620円
- ★「委託出版」承ります。

## ひととき

北尾 伸哉さん

### ただ一筋に主に仕える



1971 年生まれ。奈良高畑教会員。

東京の世田谷にある大学に進学して、上京。大学の近くの梅ヶ丘に住み、梅ヶ丘教会に出席した。初めて出席したとき、青年会がとても活発で楽しそうに見えた。学生も社会人も集い、皆、CSの教師の務めも負っていた。その交わりに入りたいと強く願ったとき、受洗すればいいんだと思ったことが動機となって、植松英二牧師から洗礼を受けた。

卒業後、奈良に戻り就職。両親が所属し、自身も高校まで通った奈良高畑教会に戻る。今青年会員、またCS教師として、年に2回、近隣の子供たちを教会に導くための「教会であそぼう」というプログラムを担っている。楽しいチラシは自作で

サラリーマンであるなら、一度くらいは転職を考えるものかもしれない。北尾伸哉さんも仕事がおもしろくなく、転職を考えたことがある。そのとき、奈良高畑教会の湯谷忠興牧師によって示された聖句がある。コリントⅡ6章2節、「今や、恵みの時、今こそ、救いの日」。転職してうまくいかなかったら、転職しなかったとしても、それだけの時にこのように思える信仰を養うようにというアドバイスであった。この聖句は、北尾さんの愛唱聖句となっている。

2011年4月から長老を務めている。特に長老となつてから、深く考えるようになったことがある。ただ仕えるというところが、どうしたところなのか。教会生活であれ、日常生活であれ、日々の暮らしのなかで自身自身の環境が良くなったり、自分自身を誇ったりと自己中心の誘惑からどうしたら逃れるのか、自分を変えていただけなのか、そのことが自分の中で大きなテーマとなった、と北尾さんは語る。

北尾さんが教会報「羊群」に毎号寄稿している4コマ漫画が好評を博している。一人息子、エマオくん(4歳)と交わす日々の会話をもとにしたもので、豊かな証となっている。

9月に秋田の湯沢教会54周年礼拝に説教の奉仕をさせていただいた。旅館を出た。

教会学校の礼拝は司会者の教師と田谷牧師とわたしの3人だけの豪雪地帯の教会だ。

「この地域では牧師が腰を痛めたら伝道できません」(田谷元義牧師の言葉に、この豪雪地帯で腰をすえて伝道する伝道者の姿に敬服させられた。

この湯沢の地で熱心に礼拝を献げ懸命に伝道している教会に触れて感動した。

しかし、最も心が熱くさせられたことは、大人の礼拝の前にもたれている教会学校の礼拝だ。

### その町の子どものための

礼拝であった。

子どもが一人もいない教会学校の礼拝だ。しかし、田谷牧師は教会学校で準備をしつかりされた説教をされた。

子どもが礼拝に来なくても、湯

沢の町の子どもたちのために礼拝が献げられている。

湯沢の子どもたちのために祈られている。このことに大きな意味があるということを感じさせられた。

教会学校の子どもが少なくなり、子どもの数より教師の数が多い教会、子どもがいなくなった教会の痛みを感じつつ、しかし、子どもが来なくても、良く準備された教会学校の礼拝が献げ続けられている。

そこに光を見出す思いがした。

(教団議長 石橋秀雄)